

2021 年度 第 1 四半期 決算説明会 質疑応答要約

Q) ベトナム工場の稼働について、Q1 の状況と、Q2 以降どのように見ているか教えてほしい。

A) ベトナムには、P&S 事業の工場と P&H 事業の工場がある。

P&S 事業の工場はハノイ近郊にある。ハノイの市内は 7 月下旬からコロナの影響で行動制限が敷かれている。工場の近くに居住する従業員は出社できるが、そうでない方は出社できない。ロックダウンの影響は少なからず受けている。加えて、部材の供給不足もあり、平準化生産をしているため、生産に遅れが出ているが、なんとか生産を繋ぐ努力を続けている。下期以降、若干改善を見込んでいるものの、一部の製品本体を中心に供給の影響は年間を通じて少し残ると見ている。

P&H 事業の工場は、ホーチミン近郊にある。現在、行動制限が敷かれているため、従業員の数を絞って稼働している。1 台でも多く供給をしようと生産を続けているが、こちらも影響が出てくる可能性がある。

Q) P&S 事業の Q2 以降の利益の考え方について、在宅需要の一巡、半導体不足等、色々とリスクがあると思うが、どういうリスクをどのくらい織り込んでいるのか。

A) 物流コストや部材のコストアップが見込まれる。Q1 はそれほどコストアップの影響が出ていないが、Q2 以降は部材のコストのアップの影響が出る。物流コスト、部材コストについては期初予想よりもリスクを織り込んでいる。

また、生産面では生産地におけるコロナの感染状況によって、稼働に制約が出る場合があるので、その点はかなりのリスクがあると見ている。

在宅需要は、特需だった 2020 年度と比べると、2021 年度下期にかけて徐々に落ち着いてくると想定していたが、現在も需要に供給が追いついていない状態。この状態は今年度いっぱい続くとみしており、引き続き需要は堅調だと考えている。

Q) プリンティングの消耗品の見通しについて教えてほしい。

A) 消耗品の見立てについて、2021 年度 Q1 の YoY 伸び率は、プラスだが、それは、前年同期の消耗品の売上が非常に低調であったことによるもの。特にオフィスのロックダウン影響を受けて、SMB の消耗品を中心に落ち込んだ。

2021 年度の年間予想では、消耗品の売上は堅調と見ている。現地通貨ベースの伸び率は、レーザーは+3%、インクは-5%としている。

レーザーの消耗品は Q2 以降も前年に引き続き堅調に推移する見込み。今後、オフィスの PV が

戻ってくるという期待と、チャネルによる在庫の積み増しもあり、売上は微増になると考えている。
インクの消耗品は、前年度の MIF が振るわなかったこと、チャネルの在庫は適正在庫水準に戻せていることで、通年では若干下振れると見ている。

Q) Q1 実績で「価格変動」が 41 億円、利益にポジティブに効いている。価格変化が始まっているのか、それとも MIX の変化が大きいのか。

A) Q1 の価格変動については、MIX の改善等によって平均単価が上がったということ。
年間についても MIX の改善等により、引き続きある程度価格変動によるプラスはあると思う。

Q) 産業機器の中国の自動車関連とは、具体的に何が良いのか。Q2 以降の継続性はどうか？

A) 中国における自動車関連の中身は、2020 年度からの特徴として EV 関連の部品の需要が高まっていることが大きい。長期的な傾向としては、この需要は続くが、一旦踊り場の状況になっている。
2020 年度の EV 関連業界（部品会社含む）では、生産能力を拡大するために投資が旺盛になり、工作機械ニーズも、2020 年度から 2021 年度 Q1 までは高かったが、一旦ここにきて落ち着いている状況だと見ている。

Q) IT 向けのスポット案件があったとのことだが、Q2 以降の継続性は？

A) 2020 年度は在宅需要により、特にノート PC やタブレットの加工用途でのニーズが堅調だった。今年度は、前年度ほどの勢いは感じていない。日工会全体の需要の動向を見ても、IT 関係の需要は下落傾向に入っており、ブラザーにおいても同様。

Q) ドミノ事業について、2020 年度 Q4 も堅調だったが、2021 年度 Q1 も売上・利益とも非常に堅調。この持続性や改善の背景について教えてほしい。

A) 欧州は、ロックダウンが開けて景気が回復してきている。コロナの再拡大等の不安材料もあるが、基本的に C&M/DP、そして消耗品は堅調に推移すると見ている。ただ、Q1 の好調さが、Q2～Q4 全て続くという見立てではなく、年間予想については、若干の上方修正としている。